学習規律の徹底から始める学力向上の取組

総社市立阿曽小学校

1 はじめに

本校は、北に鬼ノ城を望む、歴史と自然豊かな田園地帯にあります。

数年前には、生活面での落ち着きのなさが見える小学校でした。そのため、基礎基本を定着させることがむずかしく、個々の能力を伸ばしきれないまま、中学校に進学させる状況がありました。

2 本校の取組

落ち着いた環境で子どもたちの力を伸ばしたいという思いで、全職員で「学びの基礎力を高め、基礎基本の定着を図る」研究を進めることにしました。

「学びの基礎力」とは、「学習に対する心構えや学習規律、家庭学習など、学習の土台になるもの」という教職員の共通理解から始め、当たり前のことだけど、徹底できていない事項を洗い出しました。

・机の整頓　・あいさつ
・授業前の学習準備　・姿勢
・発言の仕方　・ノート指導
・時間のけじめ　・家庭学習など

これらを全職員が徹底して指導するために、必要な掲示物や児童用のカードなどを発達段階にあわせて作りました。

研究主任が中心となり、学習規律の指導ができているか、指導者自身の振り返り用チェックカードや確認シートを作り利用しました。

学習規律の徹底

児童には、学習に対する考え方を、朝礼や学活、あらゆる場面で話していきました。

・わからないこと、間違いを克服することで人は成長する。
・努力は、徐々に蓄積され、いずれ結果として表れる。

根気強く取り組むことの大切さを分かる言葉で、繰り返し伝えました。

また、学力学習状況調査などの結果から、本校児童は特に「聞くこと」に課題があると考えました。学習の基本である聞き方を指導することで、自ら学ぶ力も伸びるはずだと指導法の工夫を行いました。月1回、担任が集まり、各学級の取組についての情報交換を行いました。

一方で、本校は、昨年夏につり下げ式のプロジェクターとタブレット型コンピュータが各教室に設置され、デジタル教科書が使いやすい環境が整っています。担任は、積極的にＩＣＴ機器を利用し、児童が「分かった」と充実感をもつ授業づくりをめざしました。

3 おわりに

互いを思いやり、自分で考えて、粘り強く行う心を、毎日の掃除の時間を中心に育むようにしました。こうした取組もあり、上学年が手本を示し、下学年が見習って成長するよいサイクルが生まれてきました。落ち着いた環境ができ、高学年に自信と自覚が生まれ、学習意欲も向上しました。自ら学ぶ姿勢も見られるようになってきました。

どこの学校でも学習規律の徹底や授業改善の取組をされていると思います。本校の特色は、教職員のチームワークのよさと、妥協を許さない徹底した取組です。これからも全職員で、歩みをそろえて進んでいきたいと思います。

（校長　山内　良子）

ＩＣＴ機器を用いた授業

教職員の感性と連動性の発揮により、学校の荒れを沈静化させ、学力向上を図る取組

赤磐市立山陽西小学校

1 はじめに

本校は、岡山県が造成した山陽団地を学区として昭和49年に開校し、創立42年目を迎えた。現在、児童数は225名、学級数は12で、急激な児童数の減少で小規模校化してきている。

2 学校の現状と課題

平成8年度頃から厳しい家庭環境の児童が増加したこと等により問題行動が多発し、頻繁に学級崩壊を繰り返すなどの状況が続いていた。平成23年度には、暴力行為が年間47件、学級崩壊が5学級(通常の学級数12)に達した。児童は、朝の登校時から殴り合いの喧嘩をしたり、授業中に騒いだり、教室から逃亡したり、勝手に家に帰ったり等々のやりたい放題の状況で、放課後も地域の方から苦情の連絡が絶えず、教職員は疲弊しきっていた。

3 学校の対策(平成23年度)

(1)1学期

荒れた5学級に担任外の教員を充て、複数で対応にあたるが、焼け石に水の如く、効果はあまりなかった。

(2)夏季休業中

①赤磐市教委、岡山教育事務所との連携と校内生徒指導部会

指導主事に1学期末の荒れた学級の状況を参観していただき、夏季休業中に教職員と2学期以降の対策「今、西小で何ができるのか」を協議し、方針を決定した。

「感性」…アンテナを高く、不穏な雰囲気を感じ取る。そして、ひるまず、見逃さず立ち向かう。

「連動性」…第一発見者→数名→全教職員と応援に駆けつける。一人の動きに周囲の者が連動する。

・「あ・い・ず」の徹底

あ：危ないこと

い：意地悪やいじめ

ず：ずるいこと

・公平…誰にでも公平に指導する。特別な児童を作らない。

・迅速かつ組織的に対応…「その時、その日のうちに」

②保護者懇談会とPTA校内巡視

特に荒れがひどかった5年生の保護者(朝から教室から逃亡していた児童の保護者)と学級担任で話し合い、学校のきまりを守ることへの協力を得た。また、PTA役員と話し合い、定期的に校内巡視を実施することを決めた。

(3)2学期始業式当日

①朝の登校…校門に教職員十数名が整列して児童を迎える。

②始業式…式の途中、勝手に場所を移動した児童2名を教員10名で指導する。

(4)2学期

学校でのきまりをもとに反社会的な言動には毅然とした態度で、全教職員が本気で指導した。

・登校…教員が輪番で毎朝、登校指導

・喧嘩…止める、引き離す、野次馬、目撃者、事情聴取等々

・教室乱入…校内放送で全教員に集合指示

・全校集合…絶対に例外を認めない、許さない。

毎日の教職員の登校指導

4 成果

全教職員が「感性と連動性」を発揮して、本気で問題行動や運動会の練習等に立ち向かった結果、9月から10月にかけて、徐々に学校の荒れが沈静化していった。朝から教室を逃亡していた児童も次第に教室に戻ってきた。学級担任の指示にも素直に従うようになった。

平成24年度の暴力行為は17件、学級崩壊2学級、平成25年度以降の暴力行為は0件、学級崩壊も0である。

5 今後の更なる取組の充実

平成24年度から学力の向上を掲げ、連絡帳の記入による学用品の準備、宿題の提出(50%→95%)に取り組み、平成25年度から放課後学習教室等で地域のボランティアを活用している。平成26年度から学校支援地域本部を設立し、地域の方々を活用したり、学生ボランティアを積極的に受け入れ(年間延べ250名)、学力向上を目指している。また、土曜授業も年間11日実施し、児童の生活習慣の定着も行っている。

地域の方の放課後学習指導教室

6 おわりに

長年荒れた学校であったが、教職員の本気さが児童、保護者、地域に伝わり、短期間で沈静化につながった。多くの方々のご理解とご支援に支えられて、落ち着いた学校生活を取り戻すことができたことに感謝し、更なる学力向上へ取り組んでいきたい。

(校長　中西　伸司)

授業改善による主体的な学習態度の育成と、補充学習等による基礎基本的な学習の充実の取組

奈義町立奈義小学校

1　はじめに

本校は、全校児童が、２８０名、通常学級が11学級、特別支援学級が２学級の学校規模である。１町に１小学校である。

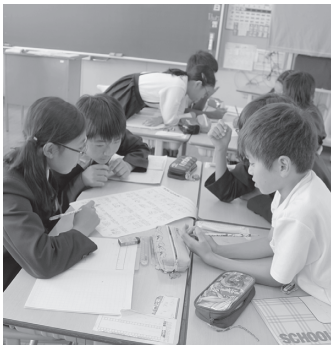
数年前からの児童の課題は、概ね次の通りであった。

・自尊感情が低く主体的に学習に参加できにくい児童が多かった。
・基礎学力の定着については、著しく二極化していた。
・思考力・表現力・判断力が、乏しかった。
・挨拶をしたり、廊下の右側を歩いたりする等の規範意識の定着が不十分であった。
・家庭学習の時間が短く、少ない宿題すら提出できない児童が多い学年があった。
・毎年、学級崩壊する学級があった。

2　取組の概要

そこで、歴代校長は、これらの課題を解決するために、次のような取組を根気よく実施してきた。

①外部講師を招聘して、自力解決の時間を保障すると共に、互いの考えを説明し交流し合う場面がある授業をめざした授業改善。
②主体性を育成するため、学習規律の整った学習集団づくり、言語活動の充実、学習意欲の育成、基礎基本的な学習内容の充実。
③若手教員が中心となった自主的な校内授業研究サークルの実働。
④家庭学習の手引き等の配布による、家庭学習の見直し。
⑤朝学習や放課後補充学習、夏季休業中の補充学習の実施。
⑥学校支援ボランティアの活用。
⑦全国学力・学習状況調査の結果を分析し、弱点克服のための全職員の共通理解と平素の授業での取組。


自分の考えをグループで説明し、学び合う子どもたち。

以上のような取組の結果、家庭学習習慣が改善される児童が増え始め、授業中に自分の考えを説明できる児童も増え、全国学力調査において、全国平均を上回る学年も出始めてきた。自尊感情が高くなった児童も増加傾向にある。

3　今後の取組の方針

ただし、以前、学級が騒然としていたことがある学年には、建て直し後も後遺症が残っており、短期間では、十分な成果が出ていないのが実情である。例えば、授業中に姿勢が崩れたり、私語が多くなり、課題を最後まで解決しようとする意欲が不足していたり、家庭学習の習慣が十分に身についていなかったりする等である。これが、喫緊の課題である。また、上記の七つの取組以外に、挨拶や廊下の歩行等の規範意識の向上についても、まだまだ不十分である。そこで、上記七つの取組にプラスして、次のような取組を目下実施している。

A　豊かな心の育成

生徒指導部を中心にした積極的な生徒指導。「凡事徹底」を合言葉に、廊下の歩行、トイレのスリッパ揃え、無言掃除等、当たり前のことを当たり前にやりきる指導の徹底をしている。

B　キャリア教育による学力向上

町の幼・中と一貫したキャリア教育に取り組み、学ぶことや働くことの意義に気づかせ、自分の夢に向かって意欲的に努力し続ける子どもの育成を開始している。

C　ＩＣＴ機器の充実と活用

頑張る学校応援事業でＩＣＴ機器を充実させていただき、本格的に活用し始めている。

D　総合学習でのＢ型学力の育成

総合的な学習の時間においては、秋田県の方針に学び、体験重視のみに偏らず、課題設定・情報収集・分析・思考・判断・表現等の力の育成を通して、学び合い、高め合う力を習得させ、それを各教科で活用する。

E　危機管理の徹底

学級崩壊、いじめ、不登校、情報管理の不徹底等信用失墜行為等の防止をするために、常に、危機管理の「さ（最悪の事態を想定して）し（慎重に）す（すばやく）せ（誠実に）そ（組織的な対応をする）」と小さなことでも「報・連・相・記録」の徹底をすることを全職員で共通理解している。これらの取組を、今後、全教職員が一丸となって努力をし続け、その成果を「子どもの事実」で示したいと考えている。

（校長　岡田　健治）

落ち着いた学習環境の確保に向けた取組

備前市立備前中学校

1　はじめに

学校の荒れが話題となる昨今ですが、本校においても暴力行為や器物破損、いじめや不登校の問題をかかえ、一部の生徒は授業に参加せずたむろしているなど学習規律の確保がままならない状態でした。

そこで、学校教育の円滑な実施を実現するために、生徒指導や学習規律などにおいて教職員全員が指導内容を共通理解して一貫した指導を徹底することで、「落ち着いた学校」を目指しました。

2　生徒指導体制の確立と実践

本校では、生徒を正しく理解し、共感的な態度で接し、生徒との信頼関係を構築することを生徒指導の基本姿勢として、様々な場面を想定した「生徒指導マニュアル」を作成して指導の徹底を図っています。毎日の休み時間や給食準備中の見守り、全教員による下校指導など、かなり大変ですが生徒と接する機会も多くなり、信頼関係を築くことにも繋がっています。

また、「生徒指導委員会」を毎週1回、「不登校対策委員会」を月1回実施し、情報交換や指導方針の検討を行っています。

3　授業展開の工夫と改善

授業規律の徹底を図るため、学区内の小学校と連携して「学習の約束」と「生活の約束」を全クラスに掲示するなど、中学校区で学習規律の定着に取り組んでいます。

また、「岡山型学習指導のスタンダード」を基本とした「分かる授業展開の工夫」を校内研究の中心に位置づけて研修を重ねています。更に、昨年から生徒全員がタブレットを使用する準備が整うなど、ＩＣＴを活用しての授業やアセスメントシートを実施して、個々を大切にした授業展開を研究・実践しています。

昨年度末のアンケートでは3年生の91％の生徒が「授業は落ち着いた雰囲気で行われている」と答え、全国学力検査のすべての教科で全国平均を上回りました。また「先生は分かりやすい授業に努めている」という問いに85％の生徒・保護者が肯定的な回答をしており、学習環境が整ってきたと実感しています。

保健体育課の授業のようす

4　地域の教育力の活用

本校では平成21年に、荒れていた学校を改善したいという教員と保護者が学校支援地域本部事業を始めました。発足当初は、地域の方が、授業に参加できずにたむろをしている生徒の話を聞いたり校内の巡視をしてくださっていました。また、落ち着いた学校を目指して、朝読書の時間の読み聞かせや生徒と一緒に花を育てるなどの環境美化、登下校の見守り、学習支援など生徒との触れ合いを大切にした活動を継続して行っています。

学校支援ボランティアの方との環境整備

5　おわりに

落ち着いた学習環境の確保は、より良い集団づくりが基盤だと思います。本校では「Ｈｙｐｅｒ－ＱＵ」を実施して、分析結果に基づいた学級経営の改善や生徒が主体的に取り組む学校行事の企画など、今後も、生徒が楽しく学校生活を送り、人として成長できる環境を整えていきたいと思います。

なにより教職員全員がチームワーク良く、生徒のことを思い、同一歩調で指導をやり抜く姿勢が大切だと感じています。

（校長　岡田　昌）

授業改善と地域学習を通じた思考力・判断力・表現力を育成する教育活動の推進

岡山市立京山中学校区
（京山中学校・伊島小学校・津島小学校）

1　はじめに

京山中学校区学校園では、岡山型一貫教育の推進に向けて、保幼小中の連携のもと、校区研究主題「豊かな学びを通して、共に生きる社会を目指し、たくましく生きる力を育成する」を設定し、各学校園での育てたい力を明確にして、学習指導の連携・協働を進めています。

中学校では、保幼小での学びをもとに、「京山から世界の見える学校へ」をスローガンに、地球的視野で未来を考え、地域のために社会貢献できる生徒を育てるために「グローカル」な視点を活かした授業・活動を通して、思いやり・夢・志を共に育て合う学校づくりを推進しています。生徒一人一人が持続可能な社会の担い手となるよう「世界が学びのキャンパス」になる学習機会を与え、国際人の基礎を培います。

2　探究活動の質の向上

（1）ＯＪＴの充実

地域に信頼され誇りとされる中学校区になるには、説明責任と結果責任は不可欠であり、ＯＪＴの充実に努め、発達段階を踏まえたスタディマナーやライフマナーを作成し、校種・教科を超えての授業公開や研究協議を積み重ねています。

中学校では、３年間を見通したカリキュラムや教育方針等についてのシラバス「京山中の教育」の作成、学校だよりの充実、「みんなで登校ＤＡＹ」の定期的な開催、学校評価・授業評価の年２回の検証・改善・徹底を図っています。また、授業改善に向けて、月１回の参画型校内研修や、夏休みに地域の方を講師にした地域フィールドワーク研修、思考力・判断力・表現力の育成に向けた四つの視点・三つのポイントを明示した学習指導案作成での授業公開など、ねらいを明確にした授業づくりを通して、互いの指導力を磨いています。

（2）本校版学習指導要領解説の作成

総合的な学習の時間では、探究活動の質の向上、相互意見交換の充実、学習課題の実生活への応用など、学習者を中心とした探究・協同型の授業に取り組むことで、地域の魅力や改善策を再発見しています。

小学校で学んだことを踏まえて、中学校では、総合的な学習の時間の学習内容を「環境」「平和」「人権・国際理解」「キャリア教育」を軸に、３年間を見通してＥＳＤの視点で重視する「六つの構成概念（多様性、有用性等）」と「七つの能力・態度（批判的に考える力、未来像を予想して計画を立てる力、他者と協力する態度等）」をもとに、本校版学習指導要領解説を作成し、評価規準表（グレード表）を明確にすることで、指導と評価の一体化を図っています。

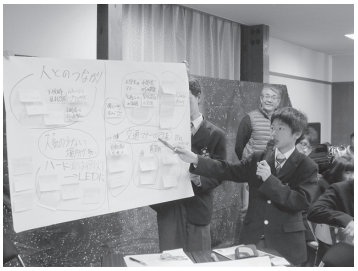
（3）教科学習プログラムの実践

中学校では、ＥＳＤの視点を拡張した教科横断的な単元学習プログラムの11事例を作成・実践し、各教科の学習評価の観点と結びつけた評価規準表を明示しています。例えば、『水墨画等の伝統文化を体験し、日本のよさを伝えよう（１年　音・美・社）』、『地球は一つ！世界の環境問題を考えよう（２年　英・理・道）』、『世界の食糧問題を解決するための行動指針を提案しよう（３年　美・家・道・英）』など、教科を超えた話し合いや学習指導の連携を通して、同僚性や教材研究力を深めています。

実験後の考察を発表する数学授業

（4）「夢の種」を地域に発信

地域の「人・もの・こと」とのつながり・関わりを大切に、「体験・感動・コミュニケーション」を踏まえた探究活動に取り組み、「夢の種」を総合文化発表会や京山公民館等で発信することで、地域を巻き込んだ活動となっています。地域提案や意見交換の場では、小・中学生は、地域の一員としてたくましい存在であり、他県との学校間交流やエコキャップ・子ども服の回収など地域に開かれた委員会活動等を通して、中学校が地域ボランティアの拠点校にもなっています。


京山公民館での意見発表

3　おわりに

未来に生きる子どもたちの夢や希望を育てる場が学校であり、「子どもの成長のために」を合言葉に、ＰＤＣＡサイクルをスパイラルにまわし、特色あるカリキュラムづくりを通して学校力・地域力を更に高めていきます。

（前年度京山中学校長　徳山　順子）